

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01481

研究課題名（和文）経済学は《良き社会》をいかに構想してきたか～ミドルデータ構築による共通善の抽出

研究課題名（英文）How has economics envisioned a Good Society?: An extraction of Common Good by creating middle data

研究代表者

小峯 敦 (Komine, Atsushi)

龍谷大学・経済学部・教授

研究者番号：00262387

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,660,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は主に三種類の研究成果を得た。学術書18冊；内訳は単著5冊、編著2冊、共著10冊（うち英文2つ）、訳書1冊、学術論文37点、学会発表27回（うち招待6、国際6）という共同研究の果実を公表した。最大の成果は、名古屋大学水田賞受賞に象徴される。「新しい資本主義論」を類型化して「希望の資本主義」と名づけ、デカップリングと市場機能への信頼に基づく整理し、最先端の研究動向として学術雑誌に掲載された。《ネオリベラリズム》の計量テキスト分析を、40年間の4種類データベース（学術系・新聞系・議会系・世俗系）で試み、特に新聞ごとの異同と類似を可視化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、次の三点にある。自由主義という基本的な概念を念頭に、経済学の歴史300年余りの長期間にわたって、《良き社会》構想という統一した視座を与えたこと。新自由主義という概念に対し、ミドルデータ（およそ10万語以上から1億語以下）を実際に構築したこと。各時代区分やデータベースに合わせた多様なテキスト解釈（計量テキスト分析、トピックモデル、証言者セミナー等）を試み、テキストの解釈論に新機軸を持ち込んだこと。またその社会的意義は、特に《ネオリベラリズム》のように多くの分野や一般の人々も使う曖昧かつ重要な用語に対して、その内容の変遷や類型を平易な形で示したことにある。

研究成果の概要（英文）：This research has produced mainly three results. (i) The fruits of collaborative research were published as 18 academic books, of which five were single-authored, two edited, ten co-authored (including 2 in English), one translated book, as 47 academic papers (including 5 in English) and as 36 conference presentations (including 6 invited and five international). The awarding of the Nagoya University Mizuta Prize symbolises the most outstanding achievement. (ii) The "New Capitalism Theory" was typified and named "Capitalism of Hope", organising it as based on decoupling and trust in the market function. That paper was published in an academic journal. (iii) A quantitative textual analysis of "neoliberalism" was attempted on four different databases (academic, newspaper, parliamentary, and secular) over 40 years, and the differences and similarities between newspapers, in particular, were made visible.

研究分野：経済学説史・経済思想

キーワード：良き社会 古典的自由主義 社会的自由主義 ネオリベラリズム

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

非正規雇用、巨万の金融資産、AIの台頭、年金不信、債務膨張など、躍動する市場とそれを擁護する経済学者に対して「双子の不信」(Tirole 2017)がある。経済という場(オイコス)はあるが、それを律するルール(ノモス)が混沌の中で見えない。巨視的には、現実が理想からの歪み・衝撃に過ぎないと把握され、失業・格差・貧困などの社会問題を設定しにくい。微視的には、社会を構成する人々に共通の利益を追求し、個人の幸福と社会の厚生を両立させる構造が見えにくい。公共哲学や熟議に焦点が当たる中、経済学の有用性や説得性が揺らぎ、巨視的にも微視的にも、経済学の自己像が霞んでいる状況にある。

2. 研究の目的

経済学がかつて秘めていた《良き社会》論を抽出・再設定し、共通善を指向する21世紀の社会(経済的効率性・社会的公正・個人的自由の三位一体)に本質的なヒントを与えられないだろうか。本研究の目的は、経済学の歴史300年余で蓄積されてきた《良き社会》論の学説を、「自由主義」の変容過程に基づく三時代区分から効果的に再構成する。本研究の学術的な独自性は、300年余という長期的視野、ミドルデータ(およそ10万語以上から1億語以下)の構築、各時代区分やデータベースに合わせた多様なテキスト解釈、という三点に集約される。

3. 研究の方法

本研究は、長期的な視座、《ミドルデータ》の効率、多様な歴史叙述論という三つの独自方法を採る。特に、自由主義の進展に従って、考察すべき時代を三つに区分する。第一に、経済学の古典的時代(1720s-)として、古典的自由主義の展開(利己心と公益の両立可能性)が議論された。第二に、経済学の改革的時代(1870s-)として、社会的自由主義 New Liberalism が勃興した。第三に、経済学の現代的時代(1970s-)として、新自由主義 Neo-Liberalism が席卷した。このような方法論を携え、《良き社会》論の実像を通時的・多面的に浮かび上がらせる。

4. 研究成果

本研究は経済学における《良き社会》論を再発見・再評価することを主な目的としているが、次の三種類の大きな成果を得た。

(1)共同研究者の学術書:平等や統治の観点から人口論を見直した『人口の経済学』(野原 2022)は学会誌三誌で書評を受けた。福祉国家スウェーデンの社会形成と経済学者の役割を100年以上の通史で描いた『社会をつくった経済学者たち』(藤田 2022)は、名古屋大学水田賞と進化経済学会賞を得るなど、極めて高い評価を得た。生・自然・環境と経済の関係を再考した『人新世の経済思想史』(桑田 2023)や、地球規模で平和やパートナーシップを考察した英書(Terao 2023 共著)は、持続可能な社会という現代的課題を背負っている。また、『平等の哲学』(寺尾 2021 共著)や『多様化する現代の労働』(金子 2023 共著)や『経済学史入門』(中井 2023 共著)は、障害者と市民権、社会関係資本、功利主義をそれぞれ良き社会論と結びつけた。なお、『テキストマイニングで読み解く経済学史』(小峯 2021 編著)は、本分野における計量テキスト分析の方法論を基礎付けた基本書である。なお『リベラリズムとは何か』(寺尾ほか 2021 共訳)は社会的自由主義の基本書であり、本研究を基礎付ける訳本となった。

(2)新しい資本主義論の類型化:本研究は現代経済の新動向を経済思想の観点から、まず類型化したことに大きな成果を得た。小峯(2022)において、20世紀中葉から世紀末まで、ソフト化・サービス化・ネットワーク化の進展や知識・情報・認知を鍵概念として、資本主義の構造変化が進んだ。この変化を前提に、2010年代以降の「新しい資本主義論」を「脱資本主義論」との関係で、「資本主義の暴走」論8、「希望の資本主義論」12に類型化した。その上で「新しい資本主義論」は明瞭な名称と具体的な構想に溢れているが、その楽観はデカップリング(経済成長と環境負荷の切り離し)や暴走を止める市場機能への信頼に基づいていると結論した。なお小峯(2022)は改訂されて学会誌の研究動向として掲載され、既に松井(2023:iii)にも引用されるほど、影響力を持った。

名称	原語	提唱者
知識社会	knowledge economy	Drucker (1969)
脱工業社会	post-industrial society	Bell (1973)
福祉資本主義	welfare capitalism	Esping-Andersen (1990)
ポスト資本主義社会	post-capitalist society	Drucker (1993)
フラット化する世界	the world is flat	Freidman (2005)
限界費用ゼロ社会	zero marginal cost society	Rifkin (2014)
無形経済	intangible economy	Haskel & Westlake (2018)

ドーナツ経済	doughnut economy	Raworth (2017)
アイデア資本主義	idea capitalism	大川内 (2021)

表1 資本主義の構造変化

名称	原語	提唱者
カジノ資本主義	casino capitalism	Strange (1986)
全般化資本主義	capitalisme généralisé	Beaud (1981)
認知資本主義	le capitalisme cognitif	Paulré (2000)
超資本主義	supercapitalism	Reich (2007)
監視資本主義	surveillance capitalism	Zuboff (2019)
リベラル能力資本主義	liberal meritocratic capitalism	Milanovic (2019)
権威主義的資本主義	authoritarian capitalism	Milanovic (2019)
レント資本主義	rent capitalism	佐々木 (2022)

表2 資本主義の暴走

名称	原語	提唱者
公益資本主義	public benefit capitalism	原 (2017)
倫理的な資本主義	ethical capitalism	Callier (2018)
民衆の資本主義	people's capitalism	Milanovic (2019)
包括的な地域主義	inclusive localism	Rajan (2019)
社会的資本主義	social capitalism	Rifkin (2019)
進歩的資本主義	progressive capitalism	Stiglitz (2019)
再構成された資本主義	reimaged capitalism	Henderson (2020)
ステークホルダー資本主義	stakeholder capitalism	Schwab (2021)
ミッション・エコノミー	mission economy	Mazzucato (2021)
テクノソーシャルイズム	tachnosocialism	King & Petty (2021)
人の資本主義	capitalism for human co-becoming	中嶋編 (2021)
サステナブル資本主義	sustainable capitalism	村上 (2021)

表3 希望の資本主義

(3)新自由主義（ネオリベラリズム）の計量テキスト分析：本研究は経済学史の方法論的刷新という点からも、共同研究の大きな成果を得た。小峯（2023）において、《新自由主義》という学術的・通念的概念を分析対象に据えた。40年間にわたる4種類のデータベース（学術系・新聞系・議会系・世俗系）を駆使して、先行研究を追試できるか、異なる媒体によって、この概念は差異を持って出現しているか、素朴な定義（市場万能主義）が崩れ、複雑な内容（政府の権限拡大や統治原理）に変容していく画期を析出できるか、という三論点を吟味した。その結果、《新自由主義》の媒体別の出現頻度をまず可視化し、客観的な数値として議会や新聞における出現回数を確定したこと、全国紙（読売・日経・朝日・毎日）の類似点・相違点を対応分析およびコーディングルールによって明示できたこと、という二点が最大の成果となった。

以上、変容する《自由主義》を導き手として、経済学における《良き社会》論をテキストの質的・量的観点から跡づけるという共同研究の深い成果を得た。

小峯敦（2022）「新しい資本主義論」の勃興～その構造変化、環境負荷、「脱資本主義論」を参照に」『龍谷大学経済学部ディスカッション・ペーパー・シリーズ』No. 22-01, September 2022.
 小峯敦（2023）「計量テキスト分析による《新自由主義》の共起～媒体ごとの40年間変遷」『龍谷大学経済学部ディスカッション・ペーパー・シリーズ』No. 23-01, June 2023.
 松井暁（2023）『ここにある社会主義』大月書店。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 金子 創	4. 巻 64(3)
2. 論文標題 格差と規範の政治経済学：分析的マルクス主義の視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤田 菜々子	4. 巻 64
2. 論文標題 Mats Lundahl, The Dynamics of Poverty: Circular, Cumulative Causation, Value Judgments, Institutions and Social Engineering in the World of Gunnar Myrdal	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 73～74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5362/jshet.64.1_73	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤田菜々子	4. 巻 2
2. 論文標題 「人への投資」を問い直す	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田学	4. 巻 51(3)
2. 論文標題 20世紀経済思想における産業文明批判の系譜：ジョージesk＝レーゲン、玉野井、ポランニー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 環境と公害	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野原 慎司	4. 巻 64
2. 論文標題 Karl Mittermaier, Hand behind the Invisible Hand: Dogmatic and Pragmatic Views on Free Markets and the State of Economic Theory	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 75 ~ 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5362/jshet.64.1_75	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小峯 敦	4. 巻 274
2. 論文標題 テキストマイニングの戦略と意外な効能	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西洋史学	6. 最初と最後の頁 150-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小峯 敦	4. 巻 64(2)
2. 論文標題 2010年代以降の「新しい資本主義論」：経済思想史からの展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 70-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小峯 敦	4. 巻 46
2. 論文標題 書評：S. Egashira, M. Taishido, D. W. Hands, and U. Maki (eds.), A Genealogy of Self-Interest in Economics, Springer 2021	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 34-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野原 慎司	4. 巻 11
2. 論文標題 東京大学大学院経済学研究科の蔵書から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学経済学部資料室年報	6. 最初と最後の頁 6, 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002000784	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野原 慎司	4. 巻 83
2. 論文標題 コンドルセ : 平等と貧困のアンチノミーを超えて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済學論集	6. 最初と最後の頁 2~16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002003277	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野原 慎司	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 サン・ピエールにおける戦争・平和・商業,そしてルソーへ:「啓蒙」の構図を捉え直す	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知学院大学論叢. 経済学研究	6. 最初と最後の頁 89-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田 菜々子	4. 巻 56(1)
2. 論文標題 スウェーデンにおける経済学の生誕 : アンデシュ・ベルチとカール・フォン・リンネ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 オイコノミカ	6. 最初と最後の頁 1, 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井 大介	4. 巻 19(1)
2. 論文標題 功利主義へのリアクション(1) その起源と反発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生駒経済論叢	6. 最初と最後の頁 1, 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakai Daisuke	4. 巻 63
2. 論文標題 Samuel Hollander, A History of Utilitarian Ethics: Studies in Private Motivation and Distributive Justice, 1700-1875	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 63 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5362/jshet.63.2_63	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小峯 敦	4. 巻 43
2. 論文標題 ケインズにおける不確実性と慣習 : 邦語文献の独自性を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 130, 132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小峯 敦	4. 巻 63
2. 論文標題 Susan Howson, ed., Lionel Robbins on the Principles of Economic Analysis: The 1930s Lectures Routledge, 2018	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 64 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5362/jshet.63.1_64	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲北浦 淳基	4. 巻 4
2. 論文標題 「地方創生」における政策キーワードの変遷 テキストマイニングによる「総合戦略」の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域構想	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺尾 範野	4. 巻 44
2. 論文標題 書評 梅澤佑介『市民の義務としての 反乱 : イギリス政治思想史におけるシティズンシップ論の系譜』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 34-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ohtsuki Tadashi	4. 巻 81
2. 論文標題 The Economic Research of E. F. Penrose in Japan during 1925?30: The 'Undelivered' Message to Pre-war Japanese Society	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 History of Economics Review	6. 最初と最後の頁 63~75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10370196.2021.1978717	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大槻 忠史	4. 巻 21
2. 論文標題 日本の近代化と長崎高等商業学校 : 教育と研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本経済思想史研究	6. 最初と最後の頁 89-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大槻 忠史	4. 巻 63(4)
2. 論文標題 書評 牧野邦昭著『新版 戦時下の経済学者：経済学と総力戦』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 52-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Soh Kaneko, Cogliano Jonathan F., Kaneko Soh, Veneziani Roberto, Yoshihara Naoki	4. 巻 -
2. 論文標題 International Exploitation, Capital Export, and Unequal Exchange	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Oxford Handbook of Economic Imperialism	6. 最初と最後の頁 231 ~ 250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oxfordhb/9780197527085.013.10	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 寺尾範野	4. 巻 20
2. 論文標題 倫理的なシティズンシップのために - T・H・グリーンは障害者の権利をいかに認識したか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 192-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinji Nohara	4. 巻 -
2. 論文標題 Adam Smith on Self-interest	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 A Genealogy of Self-Interest in Economics (eds. Susumu Egashira, Masanori Taishido, D. Wade Hands, Uskali Maki), Springer	6. 最初と最後の頁 47-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-15-9395-6_4	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jonathan F. Cogliano, Soh Kaneko, Roberto Veneziani, Naoki Yoshihara	4. 巻 718
2. 論文標題 International Exploitation, Capital Export, and Unequal Exchange	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IER Discussion Paper Series A	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井 大介	4. 巻 21
2. 論文標題 功利主義へのリアクション (2) 経済理論との交錯	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 生駒経済論叢	6. 最初と最後の頁 69 ~ 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15100/0002000031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野原 慎司	4. 巻 197
2. 論文標題 日本経済学史における高田保馬：森嶋通夫・制度・人口	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済論叢	6. 最初と最後の頁 37 ~ 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57475/keizai ronso.197.2.4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nohara Shinji	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Adam Smith's Colonial Thought on South America	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Revue d'études benthamiennes	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/etudes-benthamiennes.10881	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 討論：小峯敦「新しい資本主義論」の勃興 2020年代の「脱資本主義論」と比較する」
3. 学会等名 第75回経済思想研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 拙著紹介：スウェーデンの経済学史
3. 学会等名 現代経済学史研究会（アルカディア市ヶ谷）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 ケインズとオリーの交流
3. 学会等名 ケインズ学会第12回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 山田鋭夫『ウェルビーイングの経済』を読む
3. 学会等名 進化経済学会現代日本の経済制度部会・ケインズ学会中部部会共催 名古屋大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tadashi Ohtsuki
2. 発表標題 Institutionalization of Economics and the Emergence of “Business Elite” in Japan, from the End of 19th Century to the Present
3. 学会等名 Online workshop for the special issue, "Serendipities. Journal for the Sociology and History of the Social Sciences." (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中井大介
2. 発表標題 経済学が功利主義に基礎を置くのはいかなる意味においてか ヒューム、ベンサム、ミル、ピグー
3. 学会等名 経済学方法論フォーラム第46回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shinji Nohara
2. 発表標題 Adam Smith as a moralist
3. 学会等名 Interntional Adam Smith Society (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小峯敦・仲北浦淳基
2. 発表標題 ケインズ『一般理論』における訳語の選定-学者訳と日常訳の協働に向けて
3. 学会等名 ケインズ学会 第11回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中井 大介
2. 発表標題 19世紀後半から20世紀初頭におけるパターンリズムの展開
3. 学会等名 第70回経済思想研究会（第5回ケインズ学会東北部会・第2回良き社会研究会共催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子創
2. 発表標題 招待講演 なぜ経済学者は『誤った』モデルで分析を行うのか？
3. 学会等名 電子情報通信学会技術研究報告（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子創
2. 発表標題 格差と規範の政治経済学：分析的マルクス主義の視点から
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会 2021年度秋季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 「資本主義の終焉」論と北欧型資本主義の可能性
3. 学会等名 進化経済学会 現代日本の経済制度部会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 スウェーデンにおける経済学の生誕-Anders Berchとリンネ
3. 学会等名 経済学史学会 関西部会第178回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 寺尾範野
2. 発表標題 自立と協同の調和にむけて ボザンケ夫妻の社会福祉思想
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第44回総会・研究大会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 大槻 忠史
2. 発表標題 戦時下日本の外務省と経済学
3. 学会等名 経済学史学会 第84回全国大会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大槻 忠史
2. 発表標題 お雇い外国人のみた戦前日本の食糧事情：E.F. ペンローズの統計調査とその意味
3. 学会等名 TUFSグローバル・スタディーズ学会（AGS）第1回大会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 Shinji Nohara
2. 発表標題 John Law and Adam Smith
3. 学会等名 European Society for the History of Economic Thought (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 スウェーデン福祉国家形成におけるウェルビーイングと財政
3. 学会等名 日本財政学会 第80回大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤田菜々子
2. 発表標題 スウェーデン社会の展開とスウェーデン経済学史の相互関係
3. 学会等名 進化経済学会 福井大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中井大介
2. 発表標題 経済学トライポスの創設と経済学の独立性-PPEとの比較から
3. 学会等名 日本イギリス哲学会 第48回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 崎野知哉
2. 発表標題 新聞記事データベースから見る《スローフード》の普及・頻度・共起・対応の三分析から
3. 学会等名 経済学史学会・西南部会 第135回例会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 桑田学	4. 発行年 2023年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 352
3. 書名 人新世の経済思想史	

1. 著者名 桑田学, 環境社会学会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 742
3. 書名 「気候正義」、環境社会学事典	

1. 著者名 篠原 久、只腰 親和、野原 慎司、田中 秀夫、坂本 達哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 502
3. 書名 イギリス思想家書簡集 アダム・スミス	

1. 著者名 野原 慎司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 336
3. 書名 人口の経済学 平等の構想と統治をめぐる思想史	

1. 著者名 Atsushi Komine, Edited By Stavros Drakopoulos, Ioannis Katselidis	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 284
3. 書名 "12. The Unfinished Revolution in Policy: The Visionary Legacy of Lord Keynes", Economic Policy and the History of Economic Thought	

1. 著者名 藤田 菜々子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 438
3. 書名 社会をつくった経済学者たち	

1. 著者名 中井大介、久保真、中澤信彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 「経済学が功利主義に基礎を置くのはいかなる意味においてか：ヒューム、ベンサム、ミル」経済学史入門	

1. 著者名 マイケル・フリーデン、山岡 龍一、森 達也、寺尾 範野	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 リベラリズムとは何か	

1. 著者名 寺尾 範野、新村聡、田上孝一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 392
3. 書名 「障害と平等 障害者のシティズンシップはいかに否定されてきたか、いかに正当化しうるか」 平等の哲学入門	

1. 著者名 小峯 敦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 226
3. 書名 経済学史	

1. 著者名 小峯 敦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 テキストマイニングから読み解く経済学史	

1. 著者名 小峯敦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 324
3. 書名 戦争と平和の経済思想	

1. 著者名 金子創ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 256
3. 書名 多様化する現代の労働：新しい労働論の構築に向けて	

1. 著者名 Hanno Tero, et al	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 187
3. 書名 Sustainable Development Disciplines for Humanity	

〔産業財産権〕

〔その他〕

戦争と平和に関する書誌データベース http://www.econ.ryukoku.ac.jp/~komine/hope/biblio.htm

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤田 菜々子 (Fujita Nanako) (20438196)	名古屋市立大学・大学院経済学研究科・教授 (23903)	
研究分担者	金子 創 (Kaneko Soh) (20737639)	東京都立大学・経営学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	野原 慎司 (Nohara Shinji) (30725685)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	高見 典和 (Takami Norigazu) (60708494)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	中井 大介 (Nakai Daisuke) (70454634)	近畿大学・経済学部・教授 (34419)	
研究分担者	寺尾 範野 (Terao Hanno) (80735514)	早稲田大学・社会科学総合学院・准教授 (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	桑田 学 (Kuwata Manabu)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大槻 忠史 (Ohtsuki Tadashi)		
研究協力者	仲北浦 淳基 (Nakakitaura Junki)		
研究協力者	山尾 忠弘 (Yamao Tadahiro)		
研究協力者	崎野 知哉 (Sakino Tomoya)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関